

「合理的配慮」を 必要とする学生に対する 支援のあり方を考える

近年、日本人学生はもちろん、留学生のなかにも「合理的配慮」を必要とする学生が増えました。留学生と日本人学生がともに一つの課題に取り組む国際共修授業のような、多様な背景を持った人たちを対象とした授業では、学生同士がそのような「差異」に意図的・無意図的に触れる／気付く機会も少なくありません。教員は、授業のなかで、合理的配慮が必要な学生にどのような支援をどの程度提供する必要があるのでしょうか、またかれらの円滑な授業への参加を自然に促すためには、どのような配慮が求められるのでしょうか。特別支援教育の専門家をお招きし、現在の政策動向・現状を確認するとともに、特に授業をはじめとする教育活動で必要とされる支援・配慮のあり方について、参加者のみなさんと考えたいと思います。

2020年2月16日(日) 10:30~15:45 (受付 10:00~)

ところ：北海道大学 学生交流ステーション(北15西8)2階 大講義室 209

アクセス：地下鉄南北線、北12条駅が最寄駅です。

参加申込先：<https://forms.gle/xn158YcirWysd247A> 申込用QRコード→

※人数把握のため、参加を希望される方は2月13日(木)までにお申込み下さい。



◆講演(10:30~12:00)

「特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの現状と課題」

青山 新吾 准教授(ノートルダム清心女子大学)

◆実践報告+全体ディスカッション(13:00~15:30)

① 安田 眞由美 准教授(長崎外国語大学)

② 西尾 大輔 氏(札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる)

問い合わせ先：北海道大学高等教育推進機構

青木 麻衣子 E-mail: maoki[at]oia.hokudai.ac.jp

※メール送信の際はアドレスの[at]を@に置き換えてください。